

中学生の部



水道について考えたこと

石巻市立山下中学校 3年 武山 心優

私たちは普段あたり前のように水道の水を利用しています。その水は安全でとてもきれいです。しかし、世界基準でみた時に安全に水道水を飲める国は196か国中わずか15か国なのです。アジア諸国で水道水が安全に飲めるのは日本とアラブ首長国連邦だけとも言われています。

では、なぜこんなに水道水が飲める国が少ないのでしょうか。主な要因は国土面積や、コスト面の問題があるそうです。日本のような国土面積の小さい国であればインフラ整備を進めやすいのですが、国土面積の大きな国では水道管の設置をすることも、それを維持していくにも、大変な時間とお金が必要になります。また、浄水処理をするにもかなりのコストがかかります。このようなことから、安全な水をペットボトルに入れて販売する方がコストがかからず、あえて水道整備を導入しないという国も多いのです。

一方、水道整備自体はあるものの、浄水レベルが低い国も多くあります。適切な衛生設備を利用できずにいる人は、世界の人口の24億人もいるといわれています。このような人々は井戸や川の水をくみ、そのまま使用したりミネラルウォーターなどを購入して生活しているということになります。このことを考えると、あたり前に水道水が飲める日本はとても恵まれていると思います。

では世界で水道水が安全に飲める国が少ない中、なぜ日本の水道水は安全に飲むことができるのでしょうか。

日本の水道水がこんなにもきれいである理由は、とてつもなく厳しい水質基準があるからに他なりません。水道水は水質基準が厳しく設けられていて、全51項目の基準をクリアしなくてはなりません。また、浄水処理についても理由があります。浄水処理とは、水道水になる前の河川水や地下水を処理し、私たちが飲めるようにきれいにすることです。

まず、浄水処理には大きく分けて急速ろ過、緩速ろ過、膜ろ過、消毒のみの4つの方法があります。これらの浄水処理を基本とし、必要に応じて鉄、マンガン、かび臭原因物質、色 などを取り除くために様々な処理を組み合わせることで水道水をつくるのです。

私は以前、テレビ番組で横須賀市相模川の浄水場の特集を見たことがあります。水道局の方が管理室でアンモニアやにごりなどをチェックし、水の状態に応じて、薬品の量や処理の工程を調節すると話していました。私たちがあたり前に飲んでいる水道水になるまでに、たくさんの手間やお金がかかっていることを改めて認識しました。

日本は水道設備に恵まれた国です。しかし、日本のように安全な水道水が提供される国は多くないのが現状です。また、日本は豊かな国とはいっても、水源は無限にあるものではありません。私たちが水を無駄に使うとすれば日本も水不足で苦しむことになるかもしれません。そうなることを防ぐため私たちができることは、歯をみがく時、手を洗う時などに出したままにしないなど水を無駄にしないよう心がけることだと思います。このような小さなことでも意識して行うことで、これからの日本の環境を守り大切にしていきたいです。さらに、恵まれた水道設備、水源をあたり前と思わず常に感謝の気持ちを持って水道を使用していきたいです。